

活躍する同窓生②

オリンピック選手を支える男

門馬 崇文さん (四十五回卒)



門馬さん

昨年同窓会報で少しだけご紹介しましたが、同窓生のアシスタント・門馬崇文さんが、昨年の平昌オリンピックに、スピードスケートチームのトレーナーとして参加しました。門馬さんがオリンピック公式選手団に帯同するのは、バンクーバー、ソチに続いて3回目です。その信頼の高さがうかがえます。皆さんご存知のように、平昌におけるスピードスケートの活躍は、門馬さんを初めとするスタッフの、万全なサポート体制もあっての結果だったのです。シーズン中でお忙しい中、年始の僅かな帰省期間中にお話を伺いましたのでご紹介いたします。

お忙しい中、ありがとうございます。現在はスピードスケートのシーズン中ですが、今年はどうのようなスケジュールですか。

年明けは、日本代表チームとして、二月にノルウェーでW杯第五戦、それが終わるとオランダで世界スプリント選手権、三月にはアメリカ・ソルトレイクシティでW杯最終戦に帯同します。

日本代表チームに常に帯同しているわけではないのですか。

私たちトレーナーは専属ではなく、他に所属を持っている者が、予定を調整しながら交代でナショナルや日本代表



平昌五輪のスピードスケート会場にて

選手やコーチとのコミュニケーションを通して、選手の身体の状態を確実に把握しました。例えば、金メダルを獲得した女子パシュートでは、準決勝から決勝の間が約二時間だったので、準決勝が終わった時点で疲労度やその時のコンディションに合わせて、コンディショニング(マッサーやストレッチの部位・量・施術の仕方など)を、私達は数パター

ンを準備して、細心の注意を払って選手の心身のケアを行いました。

今まで多くの代表選手とお会いになってきたと思いますが、この選手はすごいと感じた方はいますか。

スピードスケート選手ですが、スピードスケート選手です。その中でも、平昌で金メダル二個の高木菜那選手は、膝の怪我を抱えながらも結果を残すところに、すごさを感じます。あの膝で、マスタートは世界大会自身初の金メダルでした。また、小平奈緒選手もすごい。努力を惜みずこつこつ練習を積み上げてきてあれだけの自信につなげている。世界記録保持者だし、金、銀二個のメダルはすばらしかった。過去にも、オリンピックメダリストの清水宏保選手は、大きいとはいえない身体ながら不屈の精神で勝ち続けたことはもちろんですが、自分の身体に対する感覚がとても秀でていて、不思議な感覚を感じていて、清水選手をマッサージすることで助言をいただき、ズレを修正したこともあります。

チームに帯同しています。私は、普段は整形外科に勤務しており、院長の理解と協力を得ながら活動しています。

平昌では素晴らしい活躍のスピードスケートチームですが、門馬さんが最も気に入っていたのは何ですか。

やはり、選手のコンディショニングです。ピーキング(試合に向けてコンディショニングの状態にもっていく)をアシストするために、大事な試合に向けて練習メニューや身体状態に関するデータをすり合わせてコンディショニングをあげています。身体を触って選手やコーチとのコミュニケーションを通して、選手の身体の状態を確実に把握しました。例えば、金メダルを獲得した女子パシュートでは、準決勝から決勝の間が約二時間だったので、準決勝が終わった時点で疲労度やその時のコンディショニングに合わせて、コンディショニング(マッサーやストレッチの部位・量・施術の仕方など)を、私達は数パター



平昌五輪の女子パシュート決勝直後に控え選手と喜びを分かち合う門馬さん
(YouTube(「NHK」日本、金メダル! スピードスケート女子団体/「NHK」チャンピオン!より)
* このシーンは、YouTubeで視聴可能です。

忙しい時のストレス解消法はありますか。

子どもと遊ぶことです。三歳になる息子には癒されて

います。あとは旅行です。まとまった休みはなかなかないのですが、二日間休みとなったときは、家族と一泊で温泉に入っています。

高校時代のことをお聞かせください。

部活動中心に高校生活を過ごしていました。サッカー部に所属していましたが、自分たちでメニューを考え、工夫して練習したことを覚えています。勉強も疎かにせず、体育科教員になってサッカーの指導をすることを目標に福島大学教育学部(当時)に進学しました。

アスレティックトレーナーを目指したのは、大学在学中ですか。

いえ、二十四歳のときです。大学卒業後、相模地区の高校で教員をしていましたが、「教員の仕事が、それまで思っていた自分のイメージと何か違う」と一年目から感じるようになっていきました。以前からスポーツの裏方であるトレーナーは気になっていたので、思い切って二年で教員を辞め、渋谷にある柔道整復師専門学校(夜間部)で学び始めました。昼間は整骨院で研修を兼ねたアルバイトをして生活していました。三年で卒業、国家資格を取得して就職したのち、再度専門学校で二年間学び、アスレティックトレーナーの資格を得ています。

その後、どのような経緯で日本代表チームに帯同するようになったのですか。

二〇〇二年に、知人の紹介で富山県スピードスケート国体チームに帯同しましたが、それ以降、実業団からも依頼が来るようになり、そんな活動をしているうちに代表チームからお声をかけていただき

活躍する同窓生③

舞い込んだ、甲子園での審判員

渡部 貴浩さん (四十三回卒)



写真右側が渡部さん
左の方はレギュラー審判の堅田さん

昨年三月二十三日、四月四日、第九十回記念選抜高等学校野球大会が甲子園球場で開催されました。その中に同窓生である渡部貴浩さんの姿がありました。渡部さんは高校三年間野球部に所属し、チームで四番を務め、ポジションはショートに任されていたそうです。もちろん、当時の夢は「甲子園出場」... 残念ながらその夢を叶えることはできませんでしたが、昨年、渡部さんは立場を変え、「審判員」として「夢の舞台」に立たれました。

甲子園で「全国高校野球大会」の審判をされた感想をお願いします。

やはり甲子園は、夢であり、実際にグラウンドに立つことができた時は感動でいっぱいでした。しかし、絶対にミスは許されない緊張感、選手たちのレベルの高さに甲子園を味わいながら審判するほどの余裕はありませんでした。

甲子園で審判をする場合は資格が必要ですか。

特に資格は必要ありません。ただ派遣条件を満たす必要



甲子園球場の電光掲示板に表示される三塁審判「渡部」の文字

選抜野球大会には、審判は何人くらいいるのですか。

レギュラー審判(近畿地区から選抜された審判委員三十名)と派遣審判(福島、千葉、神奈川、愛知、奈良、広島、大分、鹿児島八名)、計三十八名です。

渡部さんが実際に審判をされた試合を教えてください。

三試合です。三月二十五日、智辯学園対日大山形の二塁審判。三月二十八日、彦根東対慶応の三塁審判。三月二十九日、日大三高対三重の一塁審判です。実際に審判をしたのはこの三試合ですが、もう三試合で「控え審判」の仕事をしました。控え審判とは、記録やトラブル発生時の対応などをします。

審判員として、十日間、甲子園に滞在し、厳しいながらも楽しく審判をしてきました。このような機会をいただいた周囲の方々に感謝します。



3月28日、彦根東 対 慶応の試合での審判団
右端が渡部さん

お正月とはいえ大変お忙しい時期に、一時間ほどお話を伺いましたが、終始笑顔で実直にお答えする姿に、誠実なお人柄を感じました。スピードスケートだけでなく、バレーボールサポートとしても、過去にはサッカーの静岡FC、アルペンスキー日本代表の佐々木明選手、水泳の河本耕平選手、現在では陸上競技の福島千里選手、テコンドーの濱田真由選手等、門馬さんの技術に頼るスポーツ選手は数知れません。また、福島県への支援活動も始められ、既に陸上の全国中学校体育大会常同、県中地区の講演会も開催されました。今後も、日本を代表する選手を支える名トレーナーとして、益々の活躍を期待しましょう。